



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co., LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2019年3月期 第2四半期決算 説明資料

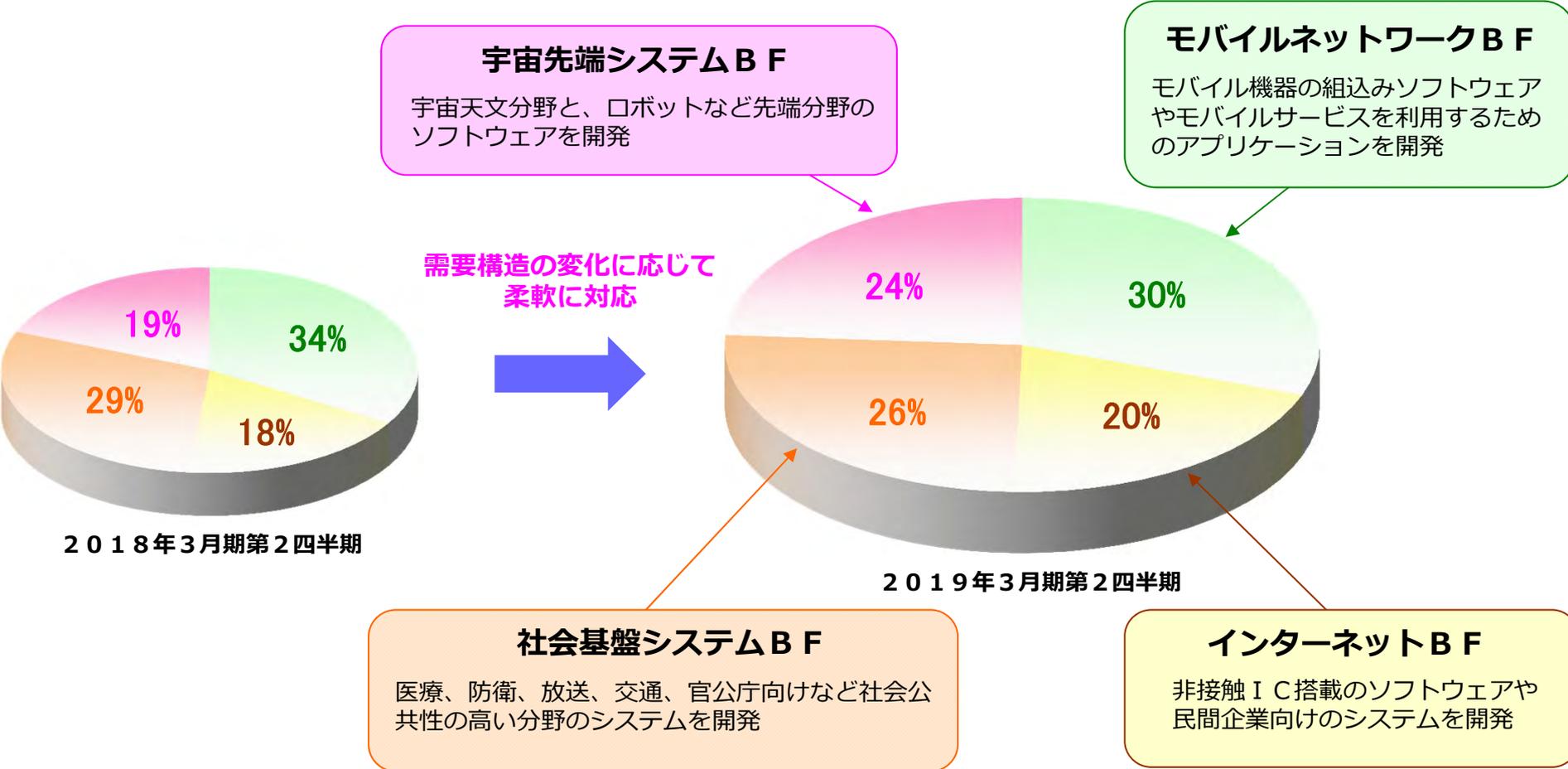
2018年11月28日

<目次>

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

事業分野（BF）

リアルタイム技術が得意とする4つの分野

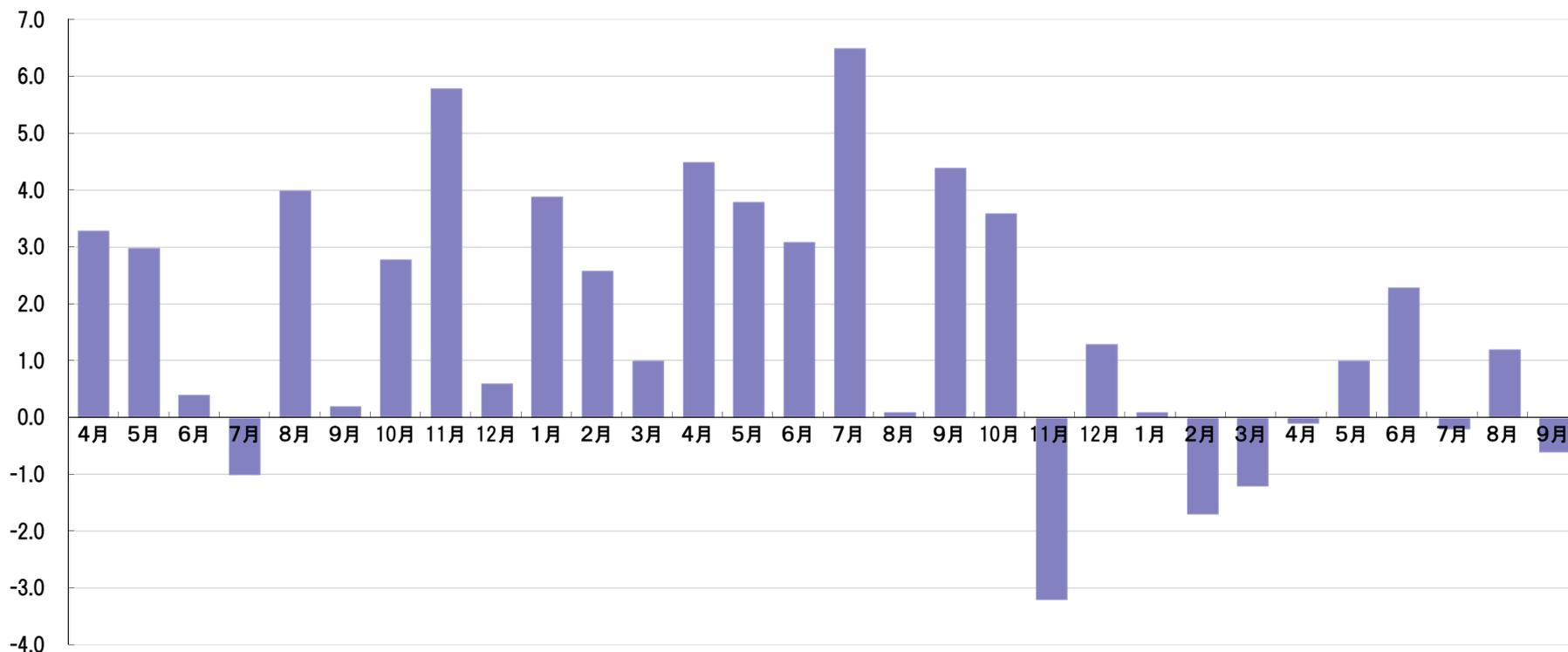


第2四半期決算概要 (2019年3月期)

2019年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2018年4月から9月までの月別売上高は、増加と減少を繰り返しておりますが、IT需要は全体的には前年同期と同様と推察される。

2019年3月期第2四半期総括

売上高は過去最高、利益面は上場来最高、前年同期比で増収増益

売上高	: <u>2,743</u> 百万円	前期比	19.9%増	
営業利益	: <u>329</u> 百万円	前期比	60.1%増	利益率 12.0%
経常利益	: <u>358</u> 百万円	前期比	62.3%増	利益率 13.1%
四半期純利益	: <u>251</u> 百万円	前期比	82.0%増	

受注高、受注残高ともに過去最高

受注高	: <u>2,997</u> 百万円	前期比	11.0%増
受注残高	: <u>1,863</u> 百万円	前期比	0.5%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が堅調
- 官公庁案件や医療分野の開発が堅調
- 非接触 I C 搭載ソフトウェアを含めたモバイル決済関連の開発案件が増加
- 車両自動走行の研究開発案件が堅調であったことに加え、サービスロボットの研究開発案件が増加

第2四半期損益計算書

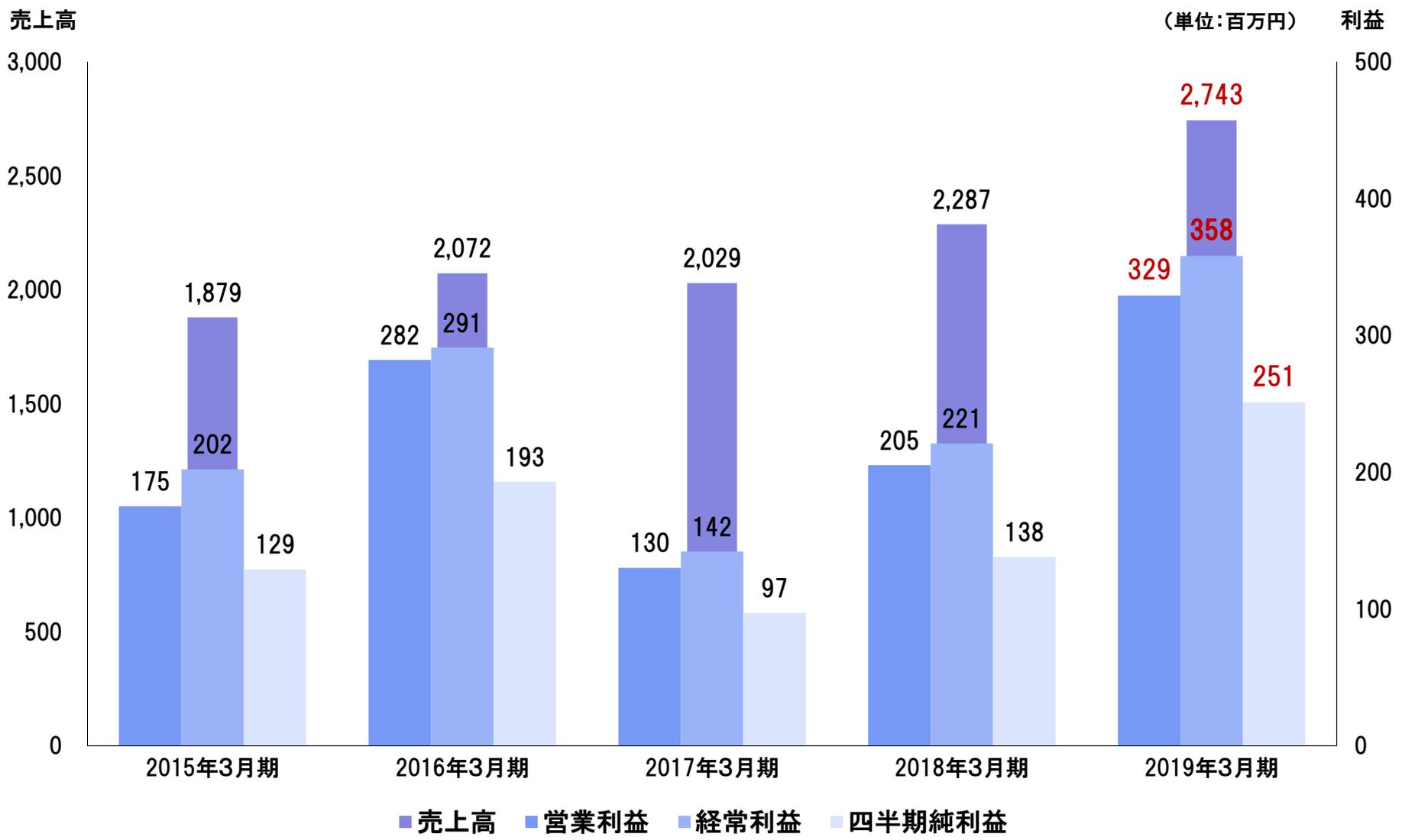
	2018年3月期 (百万円)	2019年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(7月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,287	2,743	119.9%	2,500	109.7%
売上原価	1,681	1,986	118.1%	1,795	110.6%
売上総利益	606	757	124.8%	705	107.4%
販売管理費	401	428	106.7%	425	100.7%
営業利益 (営業利益率)	205 (9.0%)	329 (12.0%)	160.1%	280 (11.2%)	117.5%
経常利益 (経常利益率)	221 (9.7%)	358 (13.1%)	162.3%	300 (12.0%)	119.6%
当期純利益	138	251	182.0%	210	119.8%

売上原価 外注費が大幅に増加 (8.6億円、前年同期比60.6%増、売上高外注比率31.6%、前期23.6%)

販売管理費 新入社員増による労務費の増加や研究開発費の大幅な増加により、大幅に増加
(研究開発費：46百万円、前年同期比80.0%増)

営業外損益 研究開発の補助金収入は11百万円 (前年同期はなし)

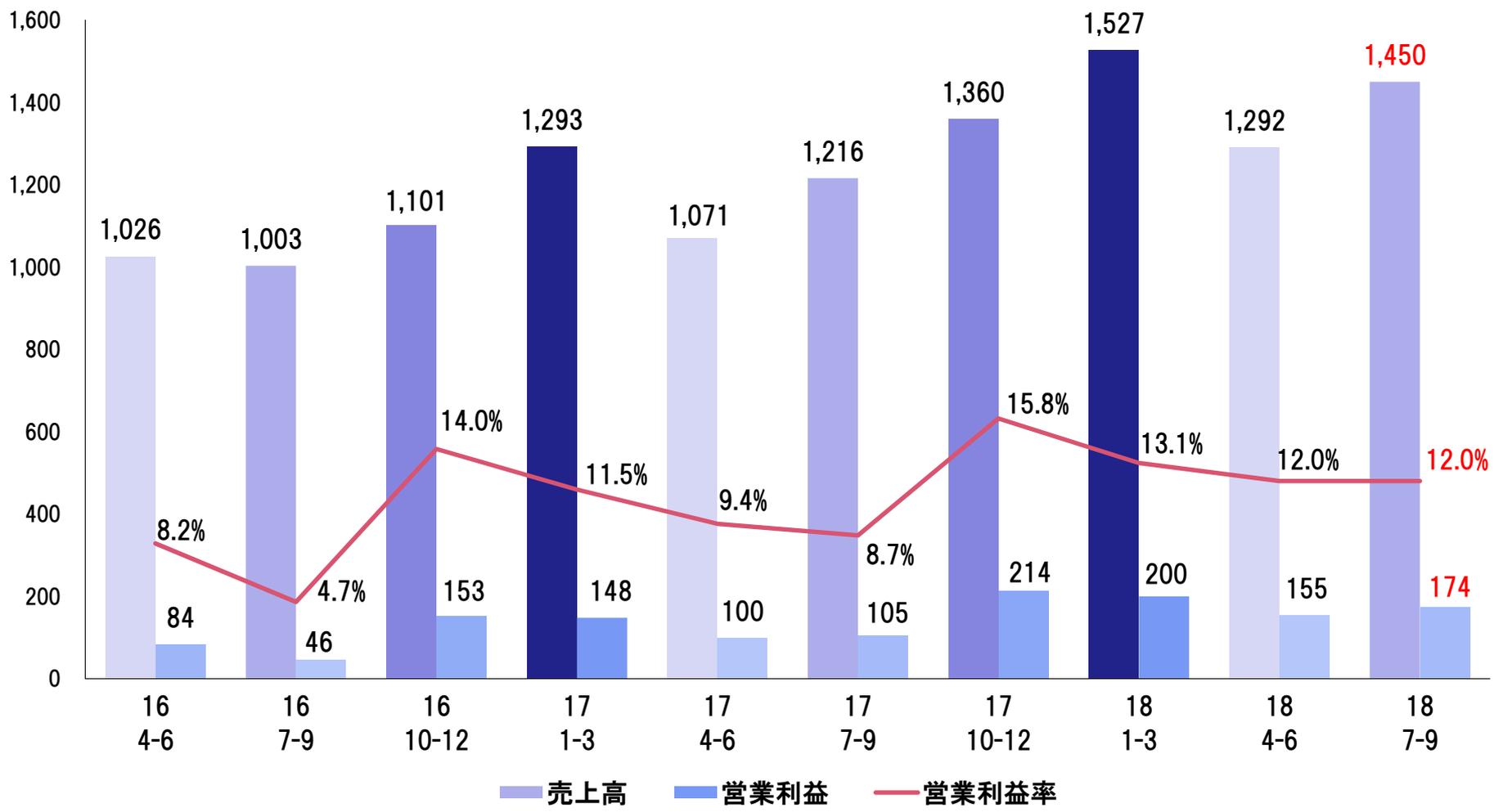
第2四半期決算業績推移（過去5年）



四半期業績推移 (P L)

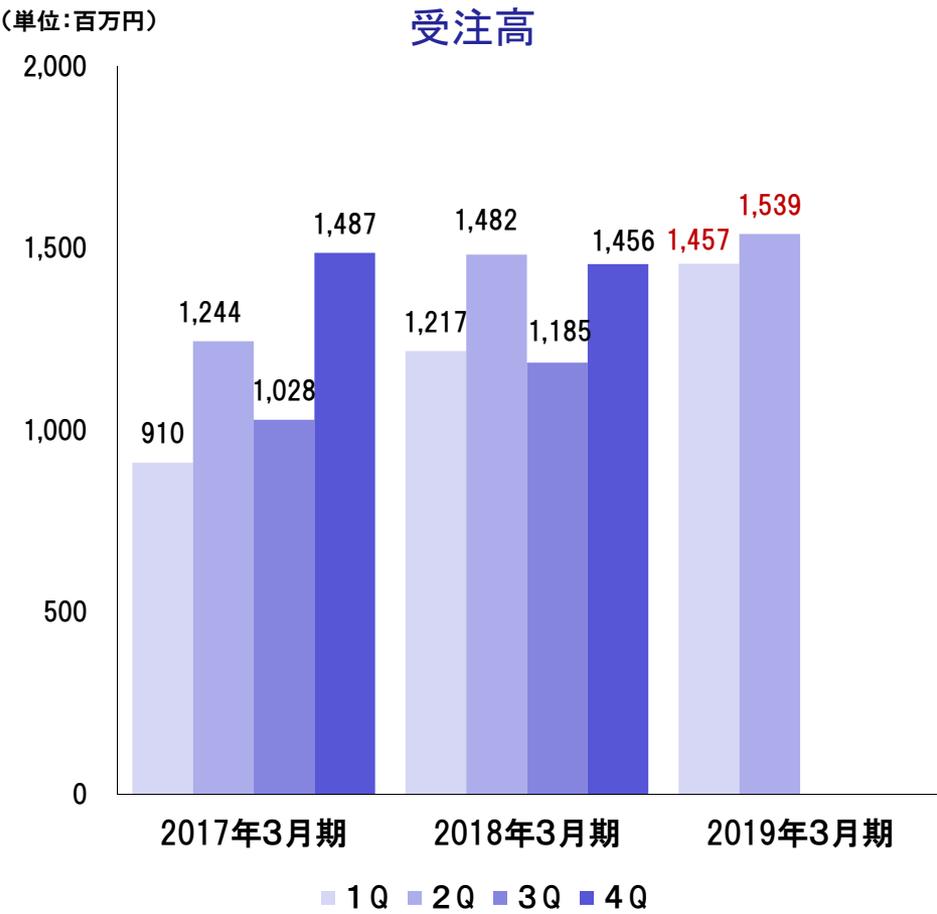
前期の第1四半期より6四半期連続で増収増益

(単位：百万円)



四半期業績推移（受注状況）

受注高、受注残高ともに過去最高



第2四半期 B F別の状況

すべてのB Fで増加

ビジネスフィールド	2018年3月期		2019年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	768	33.6	836	30.5	108.9
インターネット	413	18.1	546	19.9	132.1
社会基盤システム	673	29.4	703	25.7	104.4
宇宙先端システム	431	18.9	656	23.9	152.0
合計	2,287	100.0	2,743	100.0	119.9

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系が堅調、モバイル決済関連の開発が増加
- インターネットBFは、非接触 I C 搭載ソフトウェアの開発が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や医療分野の開発が堅調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件が堅調、ロボットの研究開発案件が増加

第2四半期末のB F別受注状況

宇宙先端システム、インターネットが増加

ビジネスフィールド	2018年3月期		2019年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	924	502	834	90.3	371	73.9
インターネット	455	215	609	133.9	296	137.5
社会基盤システム	846	890	812	96.0	793	89.1
宇宙先端システム	474	245	739	156.0	402	163.5
合計	2,700	1,855	2,997	111.0	1,863	100.5

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,632百万円、前期と比較し6.8%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の反動により、受注高、受注残高ともに減少
- インターネットBFは、非接触IC搭載ソフトウェアの開発案件の増加により、受注高、受注残高ともに増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁の長期開発案件の反動により、受注高、受注残高ともに減少
- 宇宙先端システムBFは、ロボットの研究開発案件の増加により、受注高、受注残高ともに大幅に増加

第2四半期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2018年3月末日	2018年9月末日	増減
流動資産	4,988	4,738	▲249
固定資産	1,595	1,693	98
流動負債	1,070	882	▲187
固定負債	109	117	7
純資産	5,403	5,432	28
総資産	6,583	6,432	▲151
自己資本比率	82.1%	84.5%	2.4%
流動比率	466.1%	536.7%	70.6%
固定比率	29.5%	31.2%	1.7%

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正等を第1四半期会計期間の期首から適用し、前事業年度に係る経営指標等については当該会計基準等を遡って適用。

流動資産 受取手形及び売掛金の減少による減少

固定資産 投資有価証券の増加による増加

流動負債 未払法人税等、役員賞与引当金、賞与引当金の減少による減少

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	397	534	137
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲120	▲118	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲183	▲235	▲51
現金及び同等物の増減額	93	181	87
現金及び同等物期末残高	2,743	2,850	107

営業キャッシュ・フロー 税引前四半期純利益の増加、売上債権の減少による収入増

投資キャッシュ・フロー 投資有価証券の取得による支出減

財務キャッシュ・フロー 配当金支払による支出増

通期業績見通し (2019年3月期)

2019年3月期業績見通し

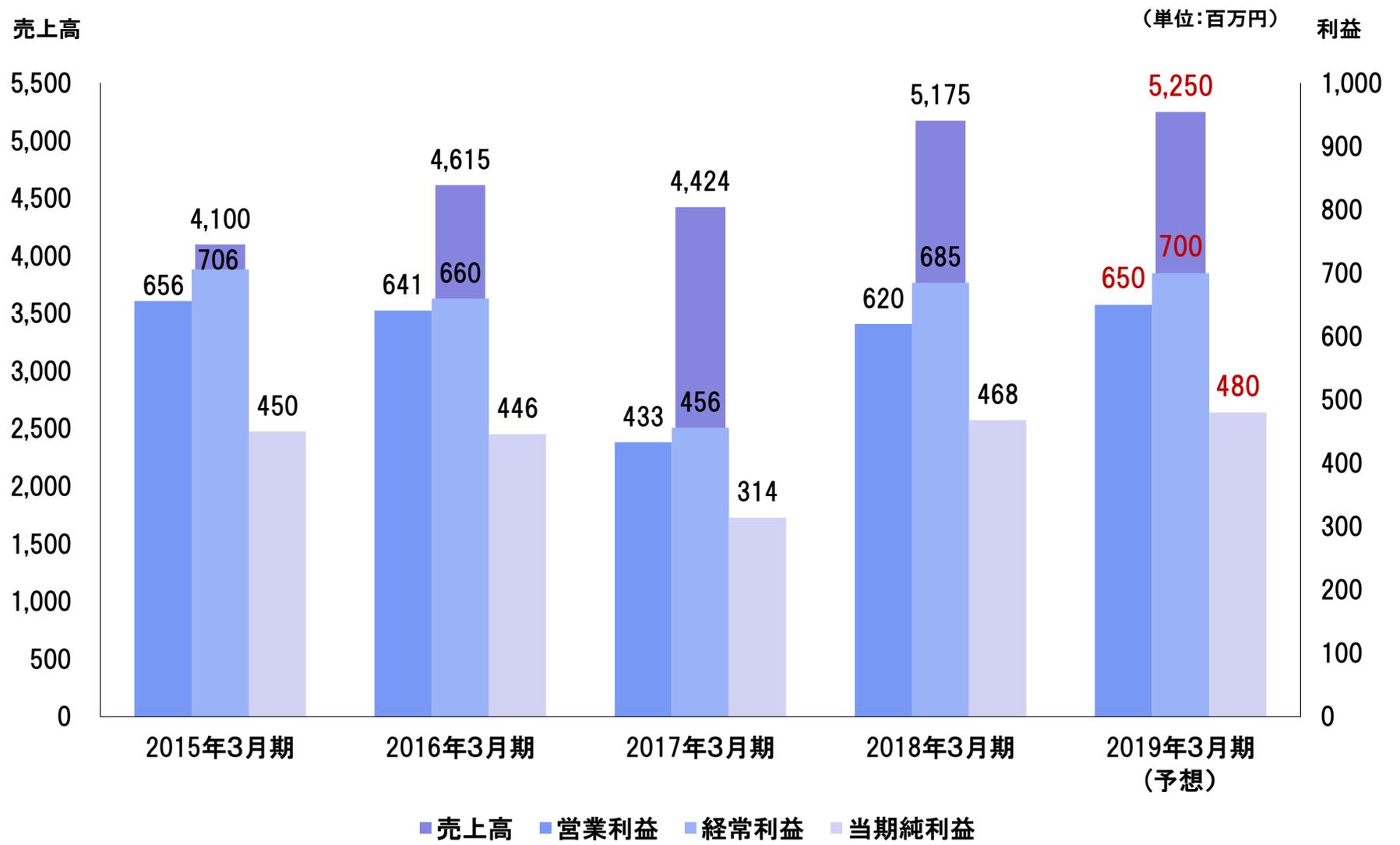
通期業績見通しは変更なし

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	5,175	5,250	101.4%
売上原価	3,743	3,760	100.4%
売上総利益	1,432	1,490	104.0%
販売管理費	811	840	103.5%
営業利益 (営業利益率)	620 (12.0%)	650 (12.4%)	104.7%
経常利益 (経常利益率)	685 (13.3%)	700 (13.3%)	102.1%
当期純利益	468	480	102.5%

- 上期は業績予想を上回ったが、通期は下期の当社を取り巻く経済情勢や市場動向が不透明であることから、現時点では変更しない。

通期業績の推移



2019年3月期B F別業績見通し

インターネットB Fを増加に変更

ビジネスフィールド	期初の見通し	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発とモバイル決済関連の商談が堅調で、前期並み	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発とモバイル決済関連が堅調で、ほぼ予想どおりの展開	➡
インターネット	非接触IC搭載ソフトウェアの開発が堅調で、前期並み	➡	非接触IC搭載ソフトウェアの開発が予想より増加し、前期並みから通期で増加に変更	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発や医療分野の商談が引続き堅調で、前期並み	➡	官公庁案件、医療分野の案件が堅調で、ほぼ予想どおりの展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調で、ロボットの研究案件も増加して増加	➡	車両自動走行の研究開発案件やロボットの研究開発案件が好調で、ほぼ予想どおりの展開	➡

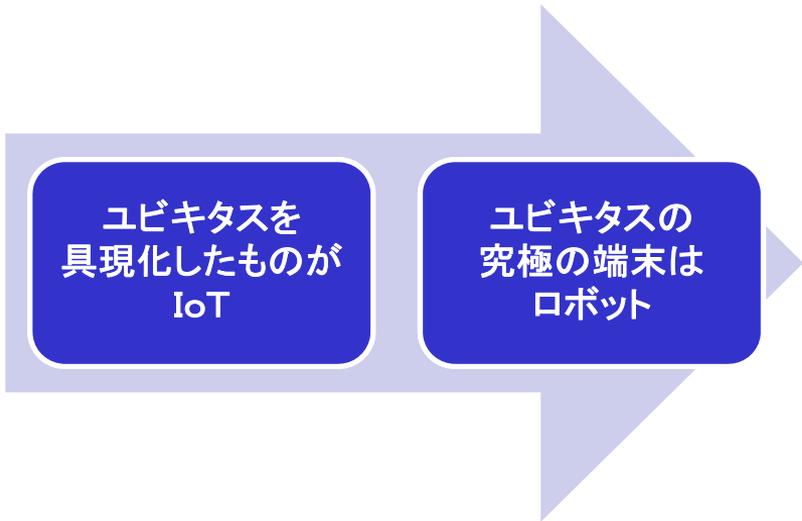
注力分野の状況 (I O T ・ A I ・ ロボット)

注力分野の状況 > IoT・AI・ロボット

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」

基盤技術はリアルタイム技術

2016年



- IoT**
- ロボットIoT向けコンピュータビジョン研究
 - MR技術を用いた次世代可視化技術 (JAXA)
 - IoT利活用研究

- AI**
- 機械学習を用いた運用データの解析による宇宙機の故障解析 (JAXA)
 - ロボット用人工知能・機械学習プラットフォーム開発 (早稲田大学)
 - 知能処理の回路化とロボットプラットフォームへの適用 (九州工業大学)

ロボットソフトウェア共通化技術 (2003年よりスタート)

NEDO
次世代ロボット
共通基盤開発プロジェクト

NEDO
基盤ロボット技術活用型
オープンイノベーション
促進プロジェクト

経済産業省
ロボット介護機器
開発・導入促進事業

NEDO次世代ロボット
知能化技術開発プロジェクト
(機能安全 IEC 61508認証取得)

- ロボット**
- RTM・ROS標準化技術・米国技術調査
 - ロボット自律移動研究
 - 人と共働して軽作業をするロボットプラットフォーム (NEDO)

ロボット分野への取組み

ロボットにシステム工学を！

ユビキタス社会の究極の端末はロボットであるという考え方のもと、2003年から、他のソフトウェア会社に先行して、ロボットの研究開発を開始。



ロボット分野の当社の強み

システム工学とロボット標準化技術 (RTM,ROS)を有しており、
ロボットを開発したいお客様のニーズに、きめ細かく応えることができる

ロボットビジネスの状況

実績 (2019年3月期第2四半期 売上高約514百万円)
(前年同期約285百万円 ← 前々年同期約241百万円)

車両自動走行は増加、それに実用化に向けた研究開発案件が追加され大幅に増加

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアの開発案件が堅調
- 大手自動車、電機、機械、建築メーカーからの実用化に向けての研究開発案件が増加
 - ⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM (ミドルウェア) などの標準化技術、自律移動ソフト (Rtino) などを使った試作機の受託開発が主流
 - ⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、業務用掃除機など広範囲
 - ⇒ 顧客層は拡大傾向

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボット標準化技術 (RTミドルウェア、ROS) ビジネスの推進
 - ⇒ 試作機の開発、製品化・実用化 (ラストワンマイル)、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
 - ⇒ 自律移動ソフト (Rtino)、コンピュータビジョンソフト (Rtrilo)、機能安全ソフト (RTMsafety) など製品+α (複数台制御、開発、教育、コンサルなど) のビジネス
- ロボット高付加価値化ビジネスの推進
 - ⇒ ロボット+α (エンジニアリング、AI、MR、画像、疲労度解析など) のビジネス

ロボット高付加価値化ビジネスの推進

高付加価値化（+α） ⇒ 研究開発で競争優位を確保

ロボットに研究開発成果を応用、大学との共同研究、国との共同研究を推進

- JAXAと「MR技術を用いた次世代可視化の検証」の研究開発
- 自律移動ロボットと連携するコンピュータビジョンの研究開発
- 「ロボットとAI（人工知能・機械学習）をつなぐプラットフォームの研究」（早稲田大学）
- 「ロボットのAI化に向けての知能処理の回路化（FPGA）の研究」（九州工業大学）
- 「ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト」にて「人と共働して軽作業をするロボットプラットフォーム」を研究開発テーマとして、ロボットの未活用領域であるレストランやコンビニなどの店舗での軽作業（接客、配膳、陳列など）が可能なロボットの開発（NEDO）

研究開発成果の論文発表など

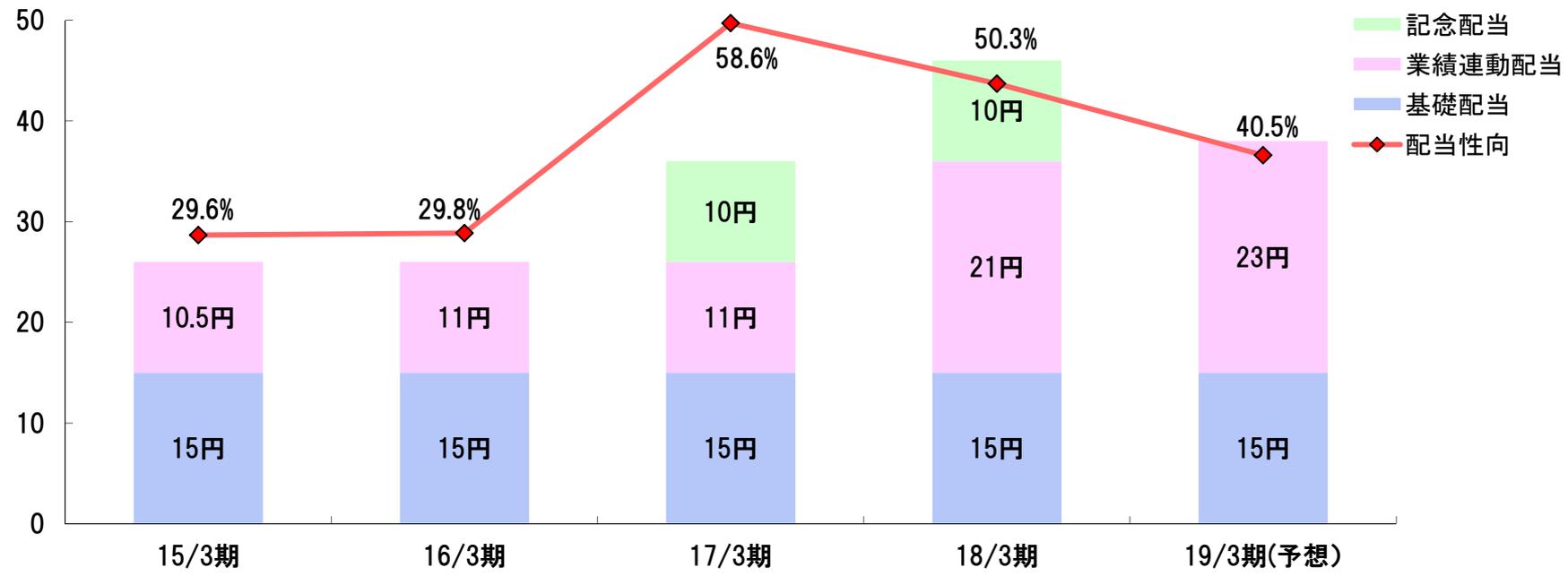
- 計測自動制御学会誌「計測と制御」に ロボットと人工知能の統合開発環境に関する技術解説を掲載
- 「機械学習を用いた運用データの解析による宇宙機の故障解析」が、データサイエンスアワード2018のファイナリストに選出
- 「ROSCon JP 2018」にてJAXAと共同で宇宙機でのROS活用に関して講演

海外でのロボット技術調査

- 「RoboBusiness2018」（米国カリフォルニア州サンタクララコンベンションセンター）に出展
- 「ROSCon2018」（スペイン マドリッド）にブロンズスポンサーとして協賛
- 米国の子会社AMSECを活かしたサービスロボットの技術調査

配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。
前期より、配当性向の目安を30%から**40%**にアップした。安定的に配当する部分は1株あたり15円とする。
- 2019年3月期は1株当たり38円の配当予想とする。



※2016年10月1日付で、1：2の割合で株式分割を実施していますが、2015年3月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましてもいかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。